

○中山間地である北幡地域は、露地野菜や果樹等の複合経営が行われているが、生産者の高齢化が進んでおり、**産地の縮小**が懸念される。

○平成30年度に実施したアンケート結果から「**有望品目の導入**」「**所得向上**」「**若者の就農支援**」が今後必要だという意見が多くあった。

○そこで、**有望品目の導入・定着、モデル地区の整備、中山間農業複合経営拠点法人の育成、産地の継続支援**に取り組んだ。

○その結果、**新規生産者の確保、法人の設立、モデル地区の課題整理、事業戦略の実行、栽培技術の検討、樹園地情報を利用できる体制**ができた。

具体的な成果

1 新規有望品目の選定・定着

■**新規有望品目のショウガ及びユズについて新規生産者5名を確保。**

2 モデル集落の整備

■**農事組合法人大正中津川が設立された。**

■大井川地区で集落座談会が開催され、地域課題について話し合いがされた。



3 産地の継続支援

■シシトウの収量、品質向上

・北幡地域の主要品種‘葵ししとう’種子の生産が終了するため、新品種へ誘導。

・**新品種導入株数 R3:1,172株→R4:2,114株**

■ナバナ

・**薬剤処理が根こぶ病対策として有効であると確認**できた。

【現地検討会】



薬剤処理
あり



薬剤処理
なし



・**営農支援アプリで園地マップを作成し、産地の園地情報が活用できる体制が整備された。**

普及指導員の活動

令和2年度～令和4年度

■**JA、町、普及指導員で構成する北幡チーム会にて選定、作成した有望品目及び経営モデルを用いて、新規就農希望者及び生産希望者を対象に情報提供を行った。**

■新規生産者に対し**個別面談及び栽培技術の個別巡回により**経営及び営農支援を実施した。

令和2年度～令和3年度

■モデル地区での**集落座談会を開催し、法人設立に向け支援を行った。**

■座談会の開催等の支援を行い、**地域課題について話し合いを継続した。**

令和2～4年

■**品種試験調査(シシトウ)、根こぶ病対策に向けた土壌処理殺菌剤試験(ナバナ)**

■**農地貸借等意向調査を実施し、営農支援アプリへ反映できるよう検討を重ねた。**

普及指導員だからできたこと

■**JA、町と連携して課題整理し、対策を検討することで、幅広い活動ができた。**

■**アンケート調査等により生産者の意向を把握し、反映することで地域に応じた対策を実施することができた。**

■**部会活動で実証ほの試験結果等を生産者と共有することができた。**

園芸振興による北幡地域の維持・発展

活動期間：令和2年度～(継続中)

1. 取組の背景

中山間地である北幡地域は、露地野菜や果樹等の複合経営が行われているが、生産者の高齢化が進んでおり、産地の縮小が懸念されている。

平成30年度に基幹品目のシントウ、ナバナの生産者に行ったアンケート結果から「有望品目の導入」「所得向上」「若者の就農支援」が今後必要だという意見が多くあった。

そこで、JA高知県幡多地区北幡営農センター、四万十町大正・十和地域振興局、普及所で構成された北幡チーム会を中心に、有望品目の導入・定着、モデル地区の整備、産地の継続支援に取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

(1) 新規有望品目の選定・定着

北幡チーム会で、有望品目として露地ショウガ、ハウスニラ、ユズを選定し、経営モデルを作成した。これを用いて、新規就農希望者及び生産希望者に対して情報提供を行った。また、新規生産者を対象に個別面談で経営状況の確認と個別巡回で栽培状況の確認を行うことで、経営安定に向け支援を実施した。

(2) モデル集落の整備

令和2年度から集落座談会を開催し、地区の課題解決に向けて話し合った。今後、地域の農地を守るためには、継続的な活動ができる法人が必要という意見がでたため、法人設立に向けた支援を行った。令和3年度には農事組合法人大正中津川（以下、(農)大正中津川）が設立され、法人運営における問題や課題を聞き取りビジョン案を作成した。今後はビジョンの実現に向けてスムーズに運営できるように支援を行っていく。

(3) 産地の継続支援

① シントウの収量、品質の向上

産地の主力品種である‘葵ししとう’の種子生産の中止により、高齢生産者の営農継続が困難となることが想定され、産地のさらなる縮小が懸念された。そのため、北幡地域に合った品種を新たに選定して、‘葵ししとう’生産者が安心して品種移行できるように実証試験を行った。

JAと共に、‘高育交シシ15号’及び‘NP401’を新品種として選定し、生育および果形調査を行い、現地検討会等で調査で得られた品種特性を生産者へフィードバックし導入を検討した。

② ナバナのセル苗の推進、根こぶ病対策の徹底

令和元年度から高齢生産者でも栽培が継続できるよう、省力化技術としてセル苗の検討を開始し、機械移植実演会及び実証試験を行った。令

和2年度からは有効性について、現地検討会や個別巡回等で周知した。

根こぶ病対策として、令和2年度に、土壌混和殺菌剤や抵抗性品種の活用等についてのアンケート調査を実施し、さらに多発地区の根こぶ病菌グループを調査した。令和3年度には根こぶ病抵抗性品種の導入を推進すると共に、令和3～4年度に殺菌剤の土壌混和による根こぶ病防除効果を明らかにし、現地検討会等で周知した。

③ユズの園地継承支援

令和2年度にJAと共に、農地流動化に向けて意向調査を実施し、園地ごとに将来の貸借意向やモノレールの有無、さらに病害の発生状況についても把握した。令和3年度はJAが導入している営農支援アプリでの園地情報の管理について検討を重ねた。



シシトウ：現地検討会



ユズ：園地情報の共有

3. 具体的な成果（詳細）

（1）新規有望品目の選定・定着

露地ショウガ、ユズにおける新規生産者及び就農者20代～60代の5名が確保できた。病害及び不測の情勢による大幅な単価下落、資材高騰により、経営が厳しくなっているため、経営安定に向け支援を継続している。

（2）モデル集落の整備

令和2年度に地区の課題を検討・整理して、令和3年度に（農）大正中津川が設立された。地域の農作業受託及び令和5年度からは法人として水稻栽培を開始し、地域農業の維持継続活動を行っている。

（3）産地の継続支援

①シシトウの収量、品質の向上

新品種の‘高育交シシ15号’及び‘NP401’の生育特性を把握することができ、新品種導入率が15%から30%に増加した。

②ナバナのセル苗の推進、根こぶ病対策の徹底

令和2年度にセル苗に取り組む生産者が5戸から7戸に増加した。

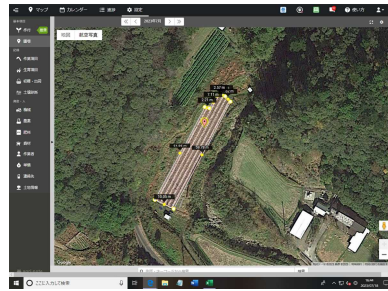
アンケート調査結果から、地区ごとに根こぶ病の発病状況や対策等を検討した。また、2種類の根こぶ病菌グループを特定し、アミスルブロム水和剤の防除効果を確認できた。

令和3年度には根こぶ病抵抗性品種を導入した生産者は41名まで増加したが、草勢が弱いことや葉色が薄いといった新たな問題が発生したため、今後も抵抗性品種の検討を継続する。

③ユズの園地継承支援

営農支援アプリで園地の状況がすぐに確認できるように情報を整理でき、新規や規模拡大のために園地が必要な生産者へ情報提供できる体制が

整った。



4. 農家等からの評価・コメント

今後、高齢化がさらに進み栽培ができなくなる農地が増加してくるため、その受け皿となり、地域の安心を確保できるような体制が必要と考えていた。今回法人が設立されて、形としては整ったが、今後どのように活動していくのかを検討していく必要がある。（四万十町A氏）

5. 普及指導員のコメント

管内の中山間地域は、主要品目の栽培技術向上（収量や品質向上等）の検討を行っても、高齢化や担い手不足により、その技術を普及できる生産者が急速に減少しているため、技術面の取組だけでは課題解決が難しい状況にある。そのため、今後農地を守り産地を維持継続するためには、地域全体での仕組み作りを検討していきたい。（高南農業改良普及所 普及指導員 安岡扶美）

6. 現状・今後の展開等

（1）新規有望品目の選定・定着

地域でくらし稼げる農業を目指すため、有望品目の再検討を行うと共に、農地及び移設可能なハウス情報の充実を図り、新規生産者及び就農者だけでなく、規模拡大にも対応できる体制を整備する。また、引き続き有望品目の新規生産者、新規就農者に対しては個別指導により、経営安定に向けて支援していく。

（2）モデル集落の整備

（農）大正中津川については、ビジョン実現と経営安定に向けた支援を継続する。

北幡地域の農地の担い手は団塊の世代の高齢化により加速度的に減少し、農地の荒廃が進むと想定される。地域計画の策定と合わせて、他地区でも農地や地域を守るための仕組み作りについて検討する。

（3）産地の継続支援

北幡地域の主要品目はシシトウ、ナバナ、ユズ、栗、茶の5品目であるが、高齢化及び労働力不足が深刻である。今後、関係機関が連携して、地元住民と一緒に、営農の継続さらには産地維持の仕組みを検討していく必要がある。